

内装仕上げ材の質感に及ぼす照明の影響

(第1報) 色温度および観察方法の影響

○水野真裕子*、北村薫子*(*武庫川女子大学)

【目的】内装仕上げ材の質感は、材料の属性である表面のテクスチャーとともに照明方法によって印象が変化する。本報では照明の光色について取り上げ、質感に及ぼす光色の影響を実験的に検討する。また内装仕上げ材の用途を踏まえた上で、観察方法と評価の関係について検討する。【方法】2700×2700mmの実験ブース内の机についたてを設置(内装および什器は全て白色)し、被験者正面に300×300mmの試料を呈示し評価させた。照明は天井に設置した直管形蛍光灯により試料全体を照射した。照明条件は、光色は昼白色(5000K)と電球色(3000K)、照度は試料上鉛直面照度15lxから2000lxの間で7段階とした。試料は内装仕上げ材として一般的に用いられる16種類とした。評価は光沢感、やわらかさ感、あたたかさ感等の項目についてME法により得た。観察方法は視覚のみ、触覚のみ、視覚触覚併用とした。被験者は正常視力を有する5名である。【結果】「あたたかさ感」において光色の影響が見られ、織物については電球色が昼白色に比べ高い評価となり、また昼白色では60lx以下において評価が下がるのに対し、電球色では30lx以下において評価が下がる傾向が見られた。観察方法では「あたたかさ感」において、織物は触覚のみが最も高い評価となり、視覚のみ、視覚触覚併用の差は小さい傾向が見られたのに対し、木質合板は視覚のみ、視覚触覚併用、触覚のみの順で高い評価となる傾向が見られた。